

# アクティブ・ラーニングを取り入れた 「総合的な学習の時間の指導法」に関する実践研究 －新型コロナウイルスの教材化を通して－

Practice on “instruction method of comprehensive learning time”  
incorporating active learning  
: Through the use of COVID-19 as a teaching material

白井 克尚

Katsuhisa Shirai

愛知東邦大学教育学部

## 要旨

本研究の目的は、大学の教員養成課程におけるアクティブ・ラーニングを取り入れた「総合的な学習の時間の指導法」に関する実践開発と検証を、現代課的課題となっている新型コロナウイルス（COVID-19）への探究学習や教材化を通して試みるものである。本研究の成果は、以下の二点である。第一に、新型コロナウイルスへの探究学習や、新型コロナウイルスに関する探究のプロセスを組み込んだ単元計画の作成を通じて、学生は、総合的な学習の時間を指導する際に求められる教材研究の基礎的な姿勢を身に付けたことである。第二に、新型コロナウイルスへの探究学習や、新型コロナウイルスに関する探究のプロセスを組み込んだ単元計画を作成したことにより、学生は、現代的課題を扱う総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する際に求められるカリキュラム・デザインの基礎的な方法について理解したことである。

## 1. はじめに

2017・2018・2019年の学習指導要領改定において、「総合的な学習（探究）の時間」（以下、総合的学習）は、中核的な役割を位置づけられた。教育課程全体の編成原理として挙げられた「社会に開かれた教育課程」、「教科横断的な視点」は、総合的学習の創設原理そのものであるといえる。また、学習指導要領の中でも、教育課程の編成にあたって「第5章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標と関連を図る」というように、総則と総合的学習との深い関連が示された。さらに、今回の小学校学習指導要領では、教科ごとの目標に「見方・考え方」を掲げる構成となっているが、総合的学習の目標は、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・点総合的な学習を行うことを通して、より良く課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す」とされており、この「探究的な見方・考え方」は、各教科の「何ができるようになるのか」として示された目標の資質・能力ベースの重要な構成要素となることが指摘できる。

さらに、教員養成に関わり2015年12月の中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質向上」を受けて、教員職員免許法・同施行規則が改正された。それに伴って、2017年教育職員免許法施行規則改定により、教職課程における「総合的な学習の時間の指導法」の科目が創設された。「大学が教職課程を編成するにあたり参考とする指針」として示された教職コアカリキュラムにおいても、新しい教育課程の再認定にあたっては、各科目のシラバスは、「総合的な学習の時間の指導法」を含む教職コアカリキュラムを反映することが求められた。

このようにして、2019年4月から、新教育課程が開始されることとなったが、教員養成において「総合的な学習の時間の指導法」にいかにして取り組んでいくべきかといった実践の蓄積は十分ではない。弘前大学教育学部（2021a、2021b）は、「総合的な学習の時間の指導法」に関わるシラバスの分析、アンケート調査、インタビュー調査等を通じて、その全国的な取り組みの傾向の一部を明らかにしている<sup>1)</sup>。しかし、「総合的な学習の時間の指導法」では、どのような「指導の仕方」を身につけているのか、そうした教師として必要な資質・能力に関する検討は、十分ではない。教員養成における「総合的な学習の時間の指導法」のあり方について、実践を通じた具体的な検証が求められているといえよう。

そこで、本研究では、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた「総合的な学習の時間の指導法」の実践に取り組み、そこでは学生が、どのような内容をいかにして学び、どういった具体的な「指導の仕方」を身につけているのか、実践資料や学生のレポートなどより分析的検証を行い、教員養成における「総合的な学習の時間の指導法」のあり方について考察するための示唆を得たい。

なお、本研究に際し、研究倫理上の問題に配慮し、以下の対策を講じた。授業中に、受講学生に感想やレポートを研究で使用する旨を口頭で伝え、同意を得たデータのみを使用し分析を行った。また、使用した学生の感想やレポートは、全て匿名で記載しており、取得したデータの分析は、当該前期授業終了後の成績評価後に行った。

## 2. 実践の視点

### (1) 教員養成におけるアクティブ・ラーニングの必要性

アクティブ・ラーニングとは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称であるとされている。元々、大学の教育改革が叫ばれる中で注目され、現在では、高等学校や小中学校においてもアクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践が盛んに取り組まれている。

アクティブ・ラーニングについて、山地（2014）は、アクティブ・ラーニングについて、活動の範囲を狭い $\leftrightarrow$ 広いものと、構造の自由度が低い $\leftrightarrow$ 高いものにわけて、分類を行っている<sup>2)</sup>。ここから示されることは、アクティブ・ラーニングは、単一の技法にとどまらず、多様な学習活動を含むものとして捉えられるということである。したがって、アクティブ・ラーニングには、一定の型があるわけではないことが分かる。

また、「アクティブ・ラーニング」という言葉は、文部科学省の用語では、中央教育審議会での議論を通じて、「主体的・対話的で深い学び」という言葉に言い換えられた。「主体的・対話的で深い学び」とは、学修者による学習態度や学習方法、学習内容にまで踏み込み、それぞれの質が問われる包括的な考え方であるといえる。

そうした「主体的・対話的で深い学び」としての「アクティブ・ラーニング」を、小・中・高・大学で実現するためには、様々な課題があることも指摘されている<sup>3)</sup>。しかし、大学の教員養成において「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業実践に取り組むことの意義は、これから学校現場に立つ学生が、「主体的・協働的な学び」を実践

できる教員として、さらに、主体的な問題発見能力や能動的な学習活動能力を体験的に習得できるといった点において認められよう<sup>4)</sup>。すなわち、大学の教師教育者が、授業をアクティブ・ラーニング化することにより、これから教師になろうとする学生の信念の形成や成長を支えることにもなると考えられる。教職課程のコアカリキュラム化は、制度的に求められているものであるが、教員養成におけるアクティブ・ラーニング化は、学校現場からも求められているものだといえる。

## (2) 学生が新型コロナウイルスを教材化することの意義

学生が新型コロナウイルスを教材化することの意義は、どのような点に認められるのだろうか。新型コロナウイルス自体、現代的な諸課題であり、解決方法を示すことが難しい課題である。

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』においては、「目標を実現するにふさわしい探究課題」の一つとして、「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」をあげている。「国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題とは、社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、これらの課題については正解や答えが一つに定まっているものではなく、従来の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。」(p.74)とされている。

すなわち、このような意義からしても、新型コロナウイルスという正解や答えが一つに定まっていない現代的課題に対して、児童・生徒が、自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動する資質・能力を育むことは重要であると考えられる。従来の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない課題であるからこそ、総合的な学習の時間における新型コロナウイルスへの探究活動を通して、より良い解決策に繋がる「ゆたかな学び」を展開していくことが望まれるのである<sup>5)</sup>。

また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、学校現場では、従来と同じような教育活動を展開することが難しくなっているのも事実である。フィールドワークやグループワークには、様々な制限が付きまとう。反面、テレワークや遠隔授業の注目度が上がり、テレビ会議システムが身近な存在となっている。そして、このようなシステムを活用すれば、これまで関わることのできなかった人にも容易にインタビューや講話を依頼することができ、新しい教育方法を展開することも可能となっている。

したがって、そうした「ポスト・コロナ」<sup>6)</sup>の授業のあり方を、学生が学習を通じて模索していくことは、これから教壇に立つ教員としての資質・能力を形成していく上でも重要な意味をもつと捉えられる。総合的な学習の時間においては、探究活動を指導するスキルが求められるため、「総合的な学習の時間の指導法」においては、「ポスト・コロナ」に向けた教材研究・カリキュラム開発・授業方法に関する経験や理解が求められるといえる。

## 3. 2021年度前期「総合的な学習の時間の指導法」の実践

### (1) 授業計画

授業は、2021年度前期、本学教育学部2年生を対象とした科目「総合的な学習の時間の指導法（小学校）」(受講生

28名)と、人間健康学部2年生を対象とした科目「総合的な学習の時間の指導法(中・高)」(受講生39名)を対象として実施した。ここでは、2021年度前期の授業計画(小学校)を例として説明する(表1)。2021年度前期の授業計画(中・高)も、扱った教育課程の内容や実践の事例以外は、ほぼ同様の展開であった。

2021年度前期の授業の展開は、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、初回3回のみ対面授業で実施した後、残りの12回は、オンデマンドで行った。14・15回目に、模擬授業の代替として、探究学習の発表と成果物に対する感想交流を行った。

表1 2021年度前期「総合的な学習の時間の指導法(小学校)」の展開

回	月日	内容・テーマ	形態
1	4/9	本授業の概要:「総合的な学習の時間」の学習経験の振り返り	対面
2	4/23	教育課程における総合的な学習の時間の意義:学習指導要領に定められた、総合的な学習の時間の目標の理解	対面
3	4/30	総合的な学習の時間の学習内容について:各学校において定める目標および内容	対面
4	5/7	総合的な学習の時間における指導計画の作成と内容の取扱い	オンデマンド
5	5/14	総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントについて:各教科との関連	オンデマンド
6	5/21	総合的な学習の時間におけるアクティブ・ラーニングについて:指導の際の留意点	オンデマンド
7	5/28	総合的な学習の時間における評価について:教科を超えて必要となる資質・能力	オンデマンド
8	6/4	小学校における総合的な学習の時間の実践事例(横断的・総合的な課題(現代的な諸課題))の検討①	オンデマンド
9	6/11	小学校における総合的な学習の時間の実践事例(横断的・総合的な課題(現代的な諸課題))の検討②	オンデマンド
10	6/18	小学校における総合的な学習の時間の実践事例(児童の興味・関心に基づく課題)の検討③	オンデマンド
11	6/25	小学校における総合的な学習の時間の実践事例(地域や学校の特色に応じた課題)の検討④	オンデマンド
12	7/2	探究のプロセスの体験① —テーマの設定、情報の収集—	オンデマンド
13	7/9	探究のプロセスの体験② —情報の整理・分析、まとめ・表現—	オンデマンド
14	7/23	探究学習の発表と成果物に対する感想交流①(授業資料:学籍番号奇数)	オンデマンド
15	7/30	探究学習の発表と成果物に対する感想交流②(授業資料:学籍番号偶数)	オンデマンド
		最終レポート:これまでの学習を踏まえ、現代的課題としての『新型コロナウイルス』に関する探究のプロセスを組み込んだ、総合的な学習の時間(小学校)の単元計画を作成する	オンデマンド

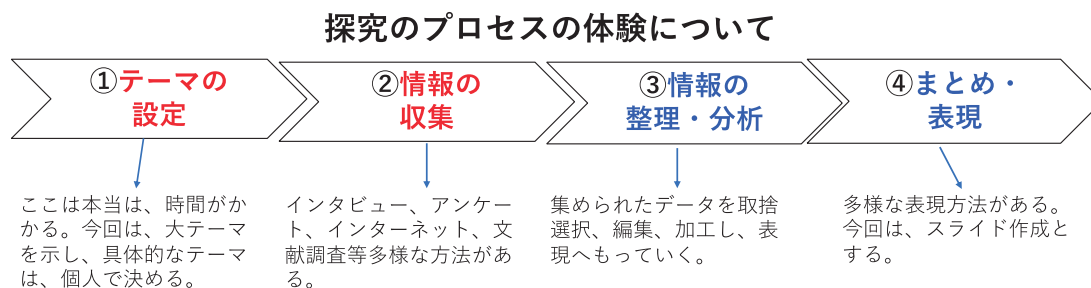
表1の授業の展開の中でも、アクティブ・ラーニングの実施授業に着目したい。そこで、本稿では、「新型コロナウイルス」の教材化を行った、第12～15回目の「探究のプロセスの体験①②」「探究学習の成果に関する感想交流①②」、最終レポート「これまでの学習を踏まえ、現代的課題としての『新型コロナウイルス』に関する探究のプロセスを組み込んだ、総合的な学習の時間の単元計画を作成する」を中心に、授業の実際について述べていきたい。

なお、本実践の成果は、複数学部をまたがって「総合的な学習の時間の指導法」の授業を受け持ち、受講者も少人数であったため現れた限定的な成果であることを予め断っておきたい。

## (2) 学生による新型コロナウイルスに関する教材研究

授業の12回目に、探究学習の体験を行うことを予告した。大テーマとして「新型コロナウイルス禍における〇〇〇の在り方」を示し、各自が個人テーマを設定することを伝え、情報の収集を行った。なお、情報の収集を行う際には、

①児童は、どんな体験をしたのか。②専門家は、どんな意見を持っているのか。これらのリサーチの観点について調べると良いといった助言を行なった。



### ① 「総合的な学習の時間の指導法（小学校）」

「総合的な学習の時間の指導法（小学校）」の授業において、学生が選んだテーマは、以下の通りである。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食のあり方</li> <li>・ 小学校の学校生活の変化</li> <li>・ 義務教育中の学習のあり方</li> <li>・ 生活のあり方</li> <li>・ 学校行事のあり方</li> <li>・ 教育格差</li> <li>・ 変わる生活様式</li> <li>・ 小学校・児童の変化</li> <li>・ 小学校教育の在り方</li> <li>・ ワクチン接種について</li> <li>・ 人権問題について</li> <li>・ 学食ルールと飲食店の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人とのコミュニケーションについて</li> <li>・ 生活環境の変化の在り方</li> <li>・ 教育の在り方</li> <li>・ おうち時間のあり方</li> <li>・ 小学生の暮らし～夏休み編～</li> <li>・ 修学旅行のありかた</li> <li>・ スポーツ観戦のあり方</li> <li>・ 学校での感染拡大防止</li> <li>・ 生活習慣の乱れ 子どもへの影響は？</li> <li>・ 変化した学校生活</li> <li>・ 授業のあり方</li> <li>・ 学校給食と児童のあり方</li> </ul>
--	--

このように小学校の授業では、小学生の生活や学校教育のあり方など、学生が自分に関心のあることについて、探究学習を行った様子がわかる。とりわけ、大学生としての自分に関わりのあることをテーマとして設定した学生がいたのも特徴的であった。

### ② 「総合的な学習の時間の指導法（中・高）」

中・高の教職課程履修学生にも、同様の流れで、個人テーマの設定を投げかけた。学生が選んだテーマは、以下の通りである。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動のあり方 with コロナ</li> <li>・ 授業のあり方</li> <li>・ 部活動のあり方</li> <li>・ 音楽のあり方 with コロナ</li> <li>・ オリンピックのあり方</li> <li>・ 生活のあり方</li> <li>・ 医療の様々な変化</li> <li>・ スポーツのあり方</li> <li>・ 認知症高齢者のケア</li> <li>・ 格闘技のあり方</li> <li>・ 授業の在り方</li> <li>・ 中高生の学校生活</li> <li>・ 観光業界</li> <li>・ 教育のあり方</li> <li>・ 地域行事の在り方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達のあり方</li> <li>・ 遊び方</li> <li>・ おうち時間の在り方</li> <li>・ 大学生生活の変化</li> <li>・ 大学のあり方</li> <li>・ 飲食店の在り方</li> <li>・ 自分のあり方</li> <li>・ ワクチン接種の在り方</li> <li>・ 一人暮らしの在り方</li> <li>・ 人々の気持ちの変化</li> <li>・ 私生活のあり方</li> <li>・ 酒類を提供する飲食店のあり方</li> <li>・ 精神障害について</li> <li>・ 学校教育の在り方</li> <li>・ スポーツがもたらすものは何か</li> </ul>
---	--

このように中・高等学校の授業では、オリンピックやスポーツ、医療、認知症高齢者のケアのあり方など、学生が自分の専門に近いことについて、探究学習を行った様子がわかる。とりわけ、時事的な事項として、飲食店の問題、友だちのあり方、一人暮らしの在り方など、大学生活において切実な課題となっていることを取り上げる学生もいた。

これらのテーマに基づいて、学生は、各自で探究学習を進めた。③情報の整理・分析では、各自、10～20枚程度のスライドを作成するように指示した。スライドでは、何らかの提言を含んでいることを課題としたために、学生は、それぞれ新型コロナウイルスに関する自分の考えをまとめた。④まとめ・表現では、スライドに基づいて感想交流を行った。

本稿では、紙幅の都合上、探究学習の制作物については詳述しないが、それぞれが興味深いテーマに基づいて完成度の高いスライドを作成した。そうした制作物からも、学生たちがアクティブ・ラーニングの視点から意欲的に学習を進めた様子が示される。また、感想交流においては、お互いの制作物の良いところを中心に意見交換を行う様子も窺えた。

### （3）学生による新型コロナウイルスへの探究学習を組み込んだ単元計画の作成

最終レポートでは、新型コロナウイルスへの探究学習を組み込んだ単元計画を、資料を参考にして作成した。以下、学生が作成した新型コロナウイルスへの探究学習を組み込んだ単元計画を紹介する。作成者は、個人情報に配慮し、無記名とする。また、紙幅の都合上、①小学校②中学校③高等学校におけるそれぞれ代表的な単元計画を一例ずつ取り上げる。

#### ①総合的な学習の時間の単元計画（小学校）

探究課題

「新型コロナウイルス禍における過ごし方」

##### 1. 単元名

小学校 第6学年

「コロナ禍での生活を楽しく安全に過ごそう」(50時間)

##### 2. 単元の目標

子どもたちが、新型コロナウイルスへの理解を深めるとともに、おうち時間やマスク生活をより安全に、楽しく過ごすことができるような工夫を凝らす力を獲得することを目指す。

##### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナウイルスの怖さや正しい知識を理解する。</li> <li>・ 感染者数のグラフやおうち時間の過ごし方アンケートなどから情報を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナウイルスに対する自己の意識を持つとともに、自分ならおうち時間をどのように過ごすのか考えを確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代の状況に興味をもち、生活を安全に楽しくしようとする。</li> </ul>

#### 4. 指導と評価の計画

過程	主な学習活動	付けたい力
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>過程としては、コロナウイルスの話題に触れ、各々が気になったことについて情報を収集し、オリジナルのおうち時間を安全に楽しく過ごすアイデアを考え、発表するという流れ。</li> <li>児童一人一人がコロナに対する意識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲、関心</li> <li>既習事項を用いて、自分の力で学びに向かい、自分にはできない、創造できないアイデアを創り上げる。</li> </ul>
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウイルスについて調べる 感染者数、感染している地域 どのような恐ろしさがあるのか おうち時間はどのように過ごせばよいか など</li> <li>感染者数推移のグラフやおうち時間アンケートの結果を用意する・具体的な図やグラフをコピーまたは印刷し、気付いたことをまとめておく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な情報を集め、吟味する、そこから大事なことを感じ取る</li> <li>グラフの推移などから増減を読み取り、その原因までも見解が行き届くようになる</li> <li>他者との意見交流の中で様々な見方・考え方を獲得する</li> </ul>
整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことからわかることや感じたことを他者と話し合う</li> <li>原因や改善方法などの見通しを立てる</li> <li>未来予想やグラフやアンケートの続きを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との交流からお互いの見方・考え方を深め合い、新たな見解を獲得する</li> <li>知るだけでなく、それに対する解決策や今のままでは将来どうなるのかなど深い学びを展開する</li> </ul>
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの活動として二つの議題を用意している</li> <li>1. 現在のコロナが終息に向かうためには我々はどういう心掛けや行動をしなければならないのかグループごとに学びを深め発表する</li> <li>2. おうち時間が増加したため、家でもできる安全で楽しい活動を考え他者に共有する活動</li> <li>これらどちらかまたは両者を通して単元の目標達成を目指し、まとめとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標を達成する</li> <li>自分のこととして問題を捉え、意欲的に学びに向かう</li> <li>友達や家族、自分自身を守り、育てるためにできる工夫を考え、日々の生活に豊かさをもたらす</li> </ul>

#### ②総合的な学習の時間の単元計画（中学校）

##### 探究課題

「新型コロナウイルス禍における地域行事の在り方」

##### 1. 単元名

中学校 第2学年

「地域行事の再開に携わろう」(25時間)

##### 2. 単元の目標

新型コロナウイルスにより、昨年中止になった地域行事の再開に向けて具体的な案やコロナ対策について考える。

イベント開催が難しい状況下で、開催に向けて地域貢献への強い意欲と態度を養う。

##### 3. 単元の評価規準

	知識および技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域行事の現状と問題点を把握する。</li> <li>②新型コロナウイルスについて調べ、適切な対策法を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ禍における地域行事について考え、自分と他者の意見を比較する。</li> <li>②他の生徒と協力して調査したり、地域の人の意見を聞いたりして、原因や根拠を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ禍において、自分のできることを考える。</li> <li>②地域行事再開の為に、提言やリーフレットにまとめている。</li> </ul>

#### 4. 指導と評価の計画

段階	時数	学習活動	評価規準および主な評価方法	関連教科
課題の設定	4	単元の目標と学習の流れの理解 ・単元ガイダンスのねらいと見通しを持つ。 地域の人か市役所の職員を招き、地域行事についての講話を聞く。 課題の設定 ・情報を整理、分析し地域行事で取り組む個人課題を考え、学習方法を検討する。	・適切な課題設定 ・方向性の理解	社会科
情報の収集	8	情報の収集 ・コロナ禍でのイベント開催のガイドラインを確認する。 ・コロナ対策について考え、講話や調査で情報を収集する。 ・従来の規模や参加人数など地域行事についての情報を収集する。 ・地域の人々にコロナ禍での地域行事再開についての調査をする。	・調査による行動 ・適切な情報収集 ・制作過程の観察	保健
整理・分析	8	整理・分析 ・研究班で収集した情報を整理、分析する。 地域の人の意見をまとめる。 ・グラフを用いた調査データの分析を経て、自分の生き方を見直し、自分の力が発揮できそうな課題を発見する。 ・調査データとインタビューや体験で得た実感との比較	・調査データ・インタビュー ・調査メモや感想 ・適切な課題発見 ・関係者コメント	社会科
まとめ・表現	5	まとめ・表現 ・従来の規模やコロナ禍におけるイベント開催についての調査結果を考察し、話し合い、中間報告をする。 ・報告された内容を話し合い、プレゼンテーションで共有する。 ・他学年生徒や地域住民に分かりやすく伝える提案をする。	・根拠に基づき論理的に説明する発表 ・自分の考えを分かりやすく説明できるプレゼン力を身につける ・協調的な態度の観察 ・報告の過程・レポート、感想	国語 「根拠を明確にして意見を書こう」 「話し合って考えを広げようパネルディスカッションをする」

#### ③総合的な探究の時間の単元計画（高等学校）

##### 探究課題

「新型コロナウイルス禍における医療の様々な変化」

##### 1. 単元名

高等学校 第3学年

「コロナウイルスにより変わった医療とは」(12時間)

##### 2. 単元の目標

日本の医療がコロナウイルスの影響によりどう変化したのかを知る。

他国の医療体制と日本の医療体制を比べ課題を見つける。

コロナウイルス感染を抑えるために自分たちができる課題を見つける。



### 3. 単元の評価規準

	知識および技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価規準	<p>①コロナウイルスにより医療状況がどのようになったのかを知る。</p> <p>②他国の医療体制と日本の医療体制を比べ、違いを知る。</p>	<p>①日本の医療体制と他国の医療体制を比較し、どのような課題があるのかを考えることができています。</p> <p>②他の生徒と協力をして調査を行い、正しいサイトや、ニュースの記事などを使い根拠を示せています。</p> <p>③コロナ感染予防として自分たちが行える課題を考えることができています。</p>	<p>①他の生徒と協力して調査した内容をレポート用紙、プレゼン用紙、PowerPointなどにまとめている。</p> <p>②調べた結果から、課題を見つけることができています。また、その課題を解決するために自分たちが何ができるか考えることができています。</p>

### 4. 指導と評価の計画

段階	時数	学習活動	評価規準および主な評価方法	関連教科
課題の設定	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題設定 情報を分析、整理し、グループで分担をする。 思考ツールを使用しようとする。 自分の考えを他の生徒に伝え、他の生徒と意見を共有する。</li> <li>学習の目標の理解 生徒に単元に関連した動画を見せ、学習する内容を理解してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作物による評価 ワークシート 制作過程の観察 思考ツールシート</li> </ul>	
情報の収集	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の収集 コロナ禍の日本の医療体制はどうなっているのか 日本の医療の課題はどうか</li> <li>情報を収集するために、インターネット・本を使用する。 インターネットを使用するときは、情報元が信用できるものかを確認する。 本を使用する場合は、学校の図書室を利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察による評価 調査による行動</li> <li>動作物による評価 ワークシート 制作過程の観察</li> </ul>	高等学校保健の手引「生きる力」を育む
整理・分析	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理、分析 資料を基に、他国の医療体制と日本の医療体制を比較する。 自分が今、できる課題を見つける。 班で収集した情報を整理・分析する。 プレゼン用紙やPowerPointに班で調査したことを見やすいように工夫をしてまとめる。(動画や図、データなどを用いる) 調べた内容をまとめながら、課題を発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオによる評価 画像や動画 調査データ</li> </ul>	高等学校保健の手引「生きる力」を育む
まとめ・表現	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ プレゼン用紙やPowerPointにまとめた内容を分担して、発表する。 発表した班に対して、聞いている生徒たちは質問する。 生徒全員で発表し合った内容から課題を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス評価 根拠に基づいて発表されているか 自分の考えを分かりやすく発表できているか</li> <li>討論する過程 協調的な態度の観察 ワークシート 学習記録</li> </ul>	現代文「学術研究」レポートの書き方

これらの学生の作成した単元計画からは、小学校の場合、総合的な学習の時間において、つきたい力を明確にすることの大切さを学んだことの成果が現れていることを窺うことができる。中・高の場合、総合的な学習の時間において、探究の過程における評価規準や主な評価方法、関連教科を意識することの大切さを学んだことの成果が現れていることが分かる。

また、これらの単元計画は、学習内容が抽象的な部分も多く、指導と評価の検討が不十分である。しかし、学生なりに、現在進行中の新型コロナウイルスを現代的課題として捉え、そうした現代的課題を扱う総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの意義について考えた様子も示される。

したがって、新型コロナウイルスへの探究学習を組み込んだ単元計画の作成を通して、学生は、現代的課題を扱う総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する際に求められるカリキュラム・デザインの基礎的な方法を理解したということを描ける。

#### (4) 学生の振り返りより

以下、学生による全授業の振り返りの中から、新型コロナウイルスへの探究学習の様子や、新型コロナウイルスに関する探究のプロセスを組み込んだ単元計画の作成の意義についての考察が表れているものを取り上げ紹介する。振り返りは、個人情報に配慮し、無記名とする。また、紙幅の都合上、「総合的な学習の時間の指導法（小学校）」「総合的な学習の時間の指導法（中・高）」の授業におけるそれぞれ代表的な振り返りを三例ずつ取り上げる。

##### ①「総合的な学習の時間の指導法（小学校）」

今回のように授業計画を考えたことで、総合的な学習の時間がより楽しみになった。今回の計画案のような児童自身で、調べたい内容を決め、本、インターネット、実際にインタビューするなどのあらゆる手段で情報を集め、まとめて発表することも大切であると改めて感じた。児童主体で、積極的に調べ、考え、同時に楽しめることのできる総合的な学習の時間の計画を教師になったら目指したい。また、授業内で何回か出た横断的な学習という言葉が印象的である。他の教科で学んだことや今後学ぶようなことも積極的に取り入れ、あらゆることを駆使した総合的な学習の時間にしたいと思う。

私はこの総合的な学習の時間の指導法の授業が毎回楽しみでした。その理由は大きく二つです。

一つ目は対面時に行われていたゲームです。楽しかったという理由もありますが、一番は実際に現場で行われている活動を仲間たちとともに体で感じる過程で指導法や工夫点を確かに感じることができ、自分の変化や学びが形となっていたためです。

二つ目は最後に単元学習を考えるまでの流れです。これまで様々な先輩の先生方の実践例を見ながら総合的な学習において何が大切なのか、どこに焦点を当てるべきなのか、目標やねらいをもって幅広い教師の魅力を示しながら授業展開をすべきことを学び、回を増すごとに自分の未熟さを感じながら、もっと学んで力をつけてやろうという意欲につながることを感じました。総合という自由な科目は本当に教師の真の価値が見えるというか一番教師の力量と子どもの姿がかかわっている気がしたので、いつかわたしは総合が得意科目と言えたりしてしまう魅力あふれる教師になりたいです。ありがとうございました。

総合的な学習の時間の指導法に関して、この講義では初め対面形式で総合とは何か、探究とは何かなどを学び総合という授業の基礎的な知識をつけていきました。授業時間の後半には、総合の授業や様々な場面で使えるレクリエーションを皆んなで取り組み、活動の触れると共に、それを行うことで友達一人一人の輪が深まりました。大学生が楽しい事は小学生が行ってももっと楽しく取り組めると思うので、様々なレクリエーションや交流のヒントを自分に取り入れたいと感じました。

また、総合の授業で重要なのは子どもが探究したいと感じるテーマ設定をどれだけ教育者が子どもに提供できるかであると感じました。これは総合は特にやらされて行う教科でなく、自ら主体的に学ぶ事ができる教科にしていく必要があるという事が重要だと言う事、そして、他の教科では学べない、時には他の教科との連携を生かした内容を学習する事も求められる事を学習しました。それらの事を意識し総合の指導を行いたいです。

最後には新型コロナ禍における〇〇という発表制作を行いました、小学生の子どもにとってタイムリーな内容でなおかつ、自分で調べ、発表するといった様々な能力を養う事ができるこの授業は子どもにとって欠かせないものであり総合の力を養うのに非常に良い内容だと感じました。

今学期はオンライン授業で総合の学習をしていきましたが様々な事が学ぶ事ができました、ここで学んだ事を教職に生かしていきたいです。ありがとうございました。

## ②「総合的な学習の時間の指導法（中・高）」

総合的な学習の時間の指導法の授業を通して学んだこと、考えた事は、自分が小学校時代などに、総合の授業を受けていた際とは、授業の捉え方が変わり、こんなにも授業を考える事が大変だった事を知る事ができた。また、自分は教師を目指しているので、授業で学んだ事を糧に今後の人生に大いに活かしていきたいと思った。また、総合的な学習の時間で行う、地域の人との繋がりを、改めて大切な時間であったと実感した。また、1つのテーマに対して、生徒それぞれの意見を出し合い、その課題と向き合っている姿を見て、1人で考えさせる時間の大切さや、情報交換の大切さを知り、自分が教師になり、指導する際には、この授業で学んだことを全て活かします。とてもわかりやすく、学びたいと心の底から思えるご指導ありがとうございました。

総合的な学習の時間の指導法の授業を通して、総合という授業の大切さについて学ぶことができた。総合では数学や国語などの授業では身に着けることができない知識や技能を身に着けることができるということを知った。また、総合という授業は地域の特徴により全く異なるということを知った。ある地域では農業が盛んなため、農業に関わる授業が行われ、ある地域では自然が多く、川で生物調査を行う学校もある。私は、将来教師になりたいと考えている。教師になった際は様々な地域の学校に行き、それぞれの地域の特徴に応じた総合の授業を体で感じたいと思う。

総合的な学習の時間というのは国語や数学といった専門的な教科ではない為、テーマの設定や単元の作成では幅広い視野を持って取り組むことが重要だと思った。また、総合的な学習の時間で学ぶ内容は将来に直

接的に関わるものが多くなりあり、また、将来の夢を見つけるきっかけにもなる教科というのを学んだ。この教科は地域の協力なくしては、成立することが難しいため、地域貢献の意味で総合的な学習の時間で考えたことを地域に還元できるようなシステムを作ることが出来れば、地域と学校とのより良い協力体制が作れるのではと考えた。

これらの感想記述からは、学生なりに、現代的課題としての新型コロナウイルスを扱う総合的な学習の時間の意義をとらえた様子が示される。小学校の場合、児童の興味関心を捉えて総合的な学習の時間の教材研究を行っていくことの大切さについて考えるきっかけとなったことが分かる。中・高の場合、教師の専門性に合わせて総合的な学習の時間の教材研究を行うことの面白さについて考えたことが分かる。

したがって、新型コロナウイルスへの探究学習や、新型コロナウイルスに関する探究のプロセスを組み込んだ単元計画の作成を通じて、学生は、総合的な学習の時間を指導する際に求められる教材研究の基礎的な姿勢を身につけたことを窺<sup>うかが</sup>うことができる。また、アクティブ・ラーニングとして、新型コロナウイルスの教材化による学習活動や感想交流などを、取り入れたことが、学生の総合的な学習の時間の意義への理解を深めることに繋がったことも指摘できる。

#### 4. おわりに

本研究の目的は、大学の教員養成課程におけるアクティブ・ラーニングを取り入れた「総合的な学習の時間の指導法」に関する実践開発と検証を、現代課的課題となっている新型コロナウイルスへの探究学習や教材化を通して試みるものであった。本研究の成果として以下の二点があげられる。

第一に、新型コロナウイルスへの探究学習や、新型コロナウイルスに関する探究のプロセスを組み込んだ単元計画の作成を通じて、学生は、総合的な学習の時間を指導する際に求められる教材研究の基礎的な姿勢を身に付けたことである。小学校の場合、児童の興味関心を捉えて教材研究を行っていくことの大切さについて考えるきっかけとなったことが、学生の感想記述から示された。中・高の場合、教師の専門性に合わせて教材研究を行うことの面白さについて考えるきっかけとなったことが、学生の感想記述から示された。

第二に、新型コロナウイルスへの探究学習や、新型コロナウイルスに関する探究のプロセスを組み込んだ単元計画を作成したことにより、学生は、現代的課題を扱う総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する際に求められるカリキュラム・デザインの基礎的な方法について理解したことである。小学校の場合、付けたい力を明確にすることの大切さを学んだことが成果としての単元計画からも示された。中・高の場合、探究の過程における評価規準や主な評価方法、関連教科を意識することの大切さを学んだことが成果としての単元計画からも示された。

なお、本実践では、本学における少人数の授業を対象としたため、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業が、受講生が大人数の場合に可能であるのかについての検証や、対面授業やオンデマンド授業の効果についての分析は不十分であった。こうした点は、今後の課題である。

最後に、新型コロナウイルスは、依然進行中であり、大学教育や授業の在り方を変化させ続けている。そして、新型コロナウイルスそのものが、これから教師になる学生や子どもたちにとって最も切実な課題である。このような正解の無い課題を「現代的な諸課題」として扱う「総合的な学習の時間」を指導する教師にとって、どのような資質や

能力が必要となるのか。今後も継続して研究を進めていく必要がある。

#### 【付記】

本研究は、愛知東邦大学地域創造研究所助成共同研究「教員養成における主体的・対話的で深い学びの実践」の成果の一部である。

#### 【注】

- 1) 国立大学法人 弘前大学教育学部『アクティブラーニングの実施状況をふまえた「総合的な学習の時間の指導法」の開発』（令和2年度 文部科学省「教員養成・採用・研修の一体的改革推進事業」委託事業）第1分冊「総合的な学習の時間の指導法」におけるアクティブ・ラーニング実施状況報告書, 2021年a. 第2分冊「総合的な学習の時間の指導法」におけるアクティブラーニングハンドブック、2021年b.
- 2) 山地弘起「アクティブラーニングとはなにか」私立大学情報教育協会『大学教育と情報』2014年度 No.1, 2-7頁.
- 3) 白井克尚「アクティブ・ラーニングの視点を問う—小・中・高・大学で『主体的・対話的で深い学び』を育むために—」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No.23、2018年3月、4-5頁。
- 4) 愛知教育大学 教職キャリアセンター『アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発〔平成28年度プロジェクト報告書〕』『アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発〔平成29年度プロジェクト報告書〕』（文部科学省機能強化経費「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成）においては、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を、教員養成の学士課程・大学院課程とともに全開講授業の6割以上で導入した成果について報告されている。
- 5) こうした新型コロナウイルス教材化の視点は、以下の論文から着想を得た。川口広美・大坂遊・金鍾成・高松尚平・村田一郎・行壽浩司・佐藤甲斐「教師はどのようにCOVID-19を授業化するか—社会科と保健体育科の2人の教師を事例として—」広島大学大学院人間科学研究科附属教育実践総合センター『学校教育実践学研究』第27巻、2021年、49-56頁。しかし、この論文は、社会科や保健体育科の教師を研究対象としたものであり、総合的な学習の時間の教員養成の立場からは述べられていない。
- 6) このような文脈から、新たな学校教育や授業のあり方を提案する図書も出版されている。例えば、広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）草原和博・吉田成章編著『ポスト・コロナの学校教育—教育者の応答と未来デザイン』溪水社、2020年。広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）草原和博・吉田成章編著『「コロナ」から学校教育をリデザインする—公教育としての学校を捉える視点—』溪水社、2021年等を参照。
- 7) 田村学編著『平成29年度版 小学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編』明治図書、2017年。田村学編著『平成29年度版 中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編』明治図書、2017年。